



水のひびき

東北地方太平洋沖地震で被災された皆様方に心からお見舞い申し上げ、一日も早い復興をお祈りいたします。

忘れられない日・・・

坂戸市消防団長 栗原 初夫



3・11 経験の無い揺れを体験しました。その時は車を運転中で、ラジオから次々入る情報が尋常ではないことに動揺しました。坂戸市では、震度5弱と知り、川越から坂戸に入り被害状況を見ながら市内を巡回し一旦自宅に戻り、その後消防本部に入り、余震対策に当たりました。

消防長からの報告で、緊急消防援助隊埼玉県隊として当組合からも若手県陸前高田市に職員を派遣したとのこと、安全と活躍を祈りました。

各分団とも坂戸市防災計画に基づき管内の警戒と被害状況を調査

震災が教えてくれたこと

入西分団長 根本 裕二



地震発生当時、職場にて仕事途中で揺れが収まり、すぐに家に電話をすると、自宅の屋根瓦は落ちたが、家族全員の無事が確認できました。仕事を終え急いで帰宅し、落ちた瓦を横目に詰所へ向かい、すでに待機していた二人と巡回および警戒に出動しました。墓地で倒れている燈籠や屋根瓦が落ちている多数の家屋を目の当たりにし、仮に震源地が坂戸市近郊なら被害が多数発生したと容易に予測できました。もし、そうなれば、その中で活動するのは、まぎれもなく市民の皆様とわれわれ消防団です。これからも地域との連携を強化し、災害に強い街づくりに取り組んでいきたいと思えます。

し、翌日にもそれぞれ分団独自の調査を行い報告書作成、後日幹部教養研修に於いて活動報告会を行いました。

震災から5ヶ月、岩手、宮城、福島3県で殉職された、警察官30名、消防職員27名、そして、消防団員249名、極めて、悲しい事実、痛恨の極みであります。志操堅固の団員の活躍で数えきれない程の多くの住民が助かった事を、私達は忘れることは無いでしょう。われわれ坂戸市消防団員は、今回の大震災で、郷土愛護の精神で未だ活動されている被災地の団員の皆様に最大の敬意と感謝を申し上げますと共にこれからも起こるであろう震災に、備えを万全にして参る所存です。

幹部教養研修

去る五月二十九日(日)消防本部会議室に於いて、埼玉県消防協会坂戸支部幹部教養研修が開催されました。

当日は、東日本大震災の犠牲者に対しての黙祷から始まり、坂戸・鶴ヶ島消防組合から緊急消防援助隊埼玉県隊として現地に於いて任務にあられた隊員のお二人を講師に迎え、スライドを交えて現地での活動を詳細にご報告いただきました。



続いて震災発生時の分団・部の活動報告を中心とした意見発表が行われました。

勝呂分団第3部(団員歴九年)

馬橋 隆さん

乳類卸若葉販売店勤務



配送業を営む馬橋さんは勝呂分団第3部の班長として、また、二人のお子さんの父親として日々仕事に、消防団活動に汗を流しています。

消防団に入団したのは、地元の方先輩に声を掛けてもらったのがきっかけだったそうです。仕事が

朝早く始まり、夜の警戒がある時はとても大変ですが、かけがえない同じ部の仲間が存在や、消防団活動を通じて知り合った地元の方々の存在が励みになり、活力となっているそうです。

人の生命や財産を守る消防団員として誇りを持つと共に、班長として周りの団員が活動しやすい環境を整える事を第一にこれからも活動していきたいという言葉から優しさを感じました。



越辺川・高麗川水害予防組合水防訓練

平成23年6月11日(土)越生町中央公民館に於いて、越辺川・高麗川水害予防組合水防訓練が開催されました。



消防団は、水害時には水防団として活動を行ないます。出水期を迎えるこの時期、市民の安全・安心・財産を守るために様々な水防工法を身につけ、有事に備えています。

当日は西入間広域消防組合の職員の指導を仰ぎ、基本的なロープ結索(ロープを他の物に結び付けたり、ロープとロープを結び合わせたりする)訓練と木流し(河川



の流れによって、堤防が削られるのを防ぐために、木に土のうの重しをつけて川の中に投げ込む)工法の実技訓練を行いました。



坂戸を守る消防団の紹介
三芳野分団第3部

5年前に改築された車庫・詰所。周囲はきれいに整理され、入口（玄関口）には、履物が丁寧に並べられている。中程まで階段を上っていくと、2階の詰所から談笑する部員たちの明るい声が聞こえてきた。

三芳野分団第3部。勝呂地区や川島町と隣接する小沼、青木地域を活動の本拠地とし、三芳野地区の守りを中心に、安全・安心のまちづくりの一翼を担っている。

今宵は7月の第一土曜日。第二土曜とともに定例の夜警巡回・車両整備の日である。

いざ詰所に入ると一見厳しい男たちが十一人。一斉にこちららに鋭い視線を投げ掛けてきた

←2班整列
結 規
律 士
気



車庫の清掃→
力を合わせて



1班夜警巡回終了、お疲れ様！

と思っただけすぐに柔和な表情に。『互いに思いやり、尊重し合える大人の集団であることが、第3部の最大の特長』と、静部長が言つと、男たちはそれぞれに大きくうなずいた。そして、数多くの地元の『先輩方や後輩達と出会えたこと』が何よりの財産であると、皆口々に語る。

地域の防災訓練や地区体育祭子ども会行事等への参加、地元から依頼される『小枝切り』作業などまさにその活動・活躍は地元地域に根ざしたものである。午後9時。本日2回目の夜警巡回の時刻。今度は第2班の出番だ。消防車両に乗り込んだ丁度その時、『遅れてごめん』の声。会社の残業で遅れていた二人も加わり全員がそろつての出動に再びみんな笑顔になった。

多機能部隊資機材
取扱い訓練

去る七月三日（日）坂戸消防署東分署訓練場に於いて、坂戸市消防団多機能部隊資機材取扱い訓練が実施されました。

当日は、気温が三十度を超える真夏日となり、過酷な気象条件の中での訓練となりましたが、隊員は積載された多種多様な機材を用いて、車中に閉じこめられた人形を安全かつ確実に救助する実践的な訓練を行いました。



そこには、市民の安全のために活動の場を広げる、新しい坂戸市消防団の形がありました。

〔多機能部隊〕

日本消防協会が平成十九・二十年度事業として、都道府県内の消防団に「消防団多機能型車両」の交付配備を行った。本県においては、これまでの災害等の活動実績が認められ、唯一、坂戸市消防団に交付された。

これを機に当消防団では「多機能部隊」を発足させ、現在、四年目を迎えている。隊員は、長期の消防団活動経験者・熟達者を招集し、組織・編成している。

多機能型車両は、消防車両としての装備の他に、多種多様な災害に対し、救命器具のAEDや救助機員のエンジンカッター等も搭載している。



おとろさんといっしょ！

坂戸分団第2部

宮崎 恭行団員
香織婦人
大樹くん

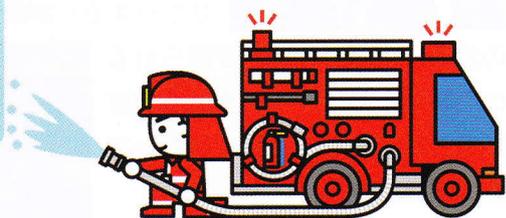


大家分団第2部

浅見 三津夫部長
亜紀子婦人
愛香ちゃん



いまこそ
あなたの出番です



坂戸市消防団ではふるさとの安全を守る消防団員を募集しています
資格：坂戸市内在住・在勤の18歳～45歳未満の方
お問い合わせ：坂戸・鶴ヶ島 消防本部庶務課
(☎281-3118 内線234)

編集後記

3・11。国難ともいえるこの度の震災。被災された方々、殉職された方々を思うとき、改めて消防団員としての使命と責任の重さを実感しました。われらは坂戸市消防団。今、決意新たに。
わがまちは
何としても わが手で守る。
この決意の言葉を持って編集後記といたします。